

むつ市金谷みちのく地区会から依頼を受け、資源ごみステーションを製作しました

青森県立むつ高等技術専門校では、木造建築科で学ぶ知識・技能を活かし、地域の問題解決に協力する職業訓練に取り組んでおり、地域の方から木造建築物の現場製作及び補修工事の依頼があった場合、応用実習の一環として校内では体験できない木造建築物の現場製作及び補修工事を受託事業として実施しています。

むつ市金谷1丁目の47世帯でつくる新たな町内会組織「金谷みちのく地区会」が令和2年5月に発足しました。むつ市では市内の町内会新設は12年ぶりということで、「ごみステーション」は市販の物置タイプを購入して設置していましたが「資源ごみ回収ボックス」が設置されていない状況とのことでした。令和2年2月に青森中央学院大学に協力してもらい、ここ数年で世帯数が増加した金谷地区の新興住宅街に居住する方々を対象とし、「ご近所知恵だし会議 in 金谷」を開催しながら住民の要望を取りまとめたところ、金谷みちのく地区会では資源ごみステーションの整備にあたり、青森県の環境政策部環境政策課が窓口となっている「資源ごみ回収ステーションの寄付金」制度を利用しながら、むつ技専と連携して設置できればという相談がありました。



『ご近所知恵だし会議』とは…

むつ市では、青森中央学院大学などと連携し、和気あいあいとした雰囲気の中で、参加者で地域の課題を出し合い、その解決方法などについて話し合う場として、この事業を平成24年度から各地域で実施しています。



株式会社ユニバースでは「もったいない・あおもり県民運動」（ごみ減量とリサイクル推進の運動）の一環として、平成21年2月から青森県内全店においてレジ袋の無料配布中止に取り組んでおり、平成22年度からはその収益金を環境貢献活動として還元するため、古紙等の「資源ごみ回収ステーション」を設置する市町村や町内会等に寄付を行っています。令和3年10月27日（水）に「金谷みちのく地区会」が寄付金の贈呈先として決定したという連絡が地区会の担当者からあったので早速、町内会の担当者と打ち合わせを行いながら、木造建築科の2年生が主体となり、11月上旬から実習で資源ごみステーションを製作して令和3年12月27日（月）に引き渡すことができました。



資源ごみステーションの製作に携わった訓練生からは、「今年度は多くの建物づくりをすることができ、部材の加工や建て方の基本について学ぶことができました」「今回の建物の屋根形状は片流れ屋根となっていたので、他の実習で作ったものと異なるので、部材の納め方について学ぶことができ貴重な経験となりました」などの感想がありました。

今後、訓練生のみなさんはこの現場実習での経験を活かし、これからも自分の腕を磨いてほしいと思います。

